

学会ニュース

目次

- ・ 代表幹事就任にあたって (王寺 賢太) 1
- ・ SMOOSY導入のご案内 3
- ・ 学会費納入のお願い 4
- ・ 第45回大会について (隠岐 さや香) 5
- ・ 第46回大会について (大石 和欣) 5
- ・ 2023年国際18世紀学会若手セミナー報告 (大林 侑平) 6
- ・ 2023年国際18世紀学会ローマ大会 セッション報告 (増田 都希) 6
- ・ 2023年国際執行委員会報告 (玉田 敦子) 7
- ・ 小林善彦先生を偲ぶ (坂倉 裕治) 8
- ・ 『学会ニュース』第97号掲載記事に関するお詫び (幹事会) 9
- ・ 事務局より 9

代表幹事就任にあたって

王寺 賢太

2023年6月18日の第45回大会総会で、新たに日本18世紀学会代表幹事に就任した、王寺賢太です。2019年から2023年まで、途中コロナ禍の非常に困難な時期を挟んで学会運営を担われた、前任者の逸見龍生会員および前事務局長の小関武史会員に厚く御礼申し上げます。以下、代表幹事就任にあたって、学会の現状と私の任期二年間の学会運営の基本方針を、会員のみなさんにお知らせします。

現在、日本18世紀学会は大きな難局を迎えています。会員数が300名以下に減少するなか、学会運営の負担が一部会員に集中した結果、四年毎に更新されていた会員名簿の発行は過去七年間にわたって停止し、2020年以来導入したA会員・B会員の種別を自己申告制としたため、会費請求もままならない事態が続きました(昨年度の会費収入は、当初目論見の約159万円の約半額にとどまっています)。この間、『年報』掲載の書評記事をめぐっては、会員から不備を指摘されるケースや、論争の組織に関する学会側の対応を批判されるケースも相次ぎました。私の任務は、新幹事会とともに、この難局を乗り越え、18世紀研究を志す会員間の自由闊達な学問的議論の場として日本18世紀学会を建て直すことにあると考えています。そのため、私は以下四つの基本方針の下に学会運営に臨む所存です。

1° 学会事務局機能の一部外部委託 (SMOOSY導入) の推進：すでに会員のみなさんには、2023年10月20日付で、(株)アトラス社提供の学会向け会員管理サービスSMOOSY導入の告知を差し上げました。この新体制導入により、会員名簿を毎年更新して会員の使用に供し、会費徴収を着実にを行うと同時に、学会事務局の負担を大幅に軽減することが見込まれます。各会員にはSMOOSY上で「会員マイページ」にアクセスし、名簿情報のチェック、会費納入など、速やかに御対応いただけるようお願いいたします。

なお、A会員・B会員の種別については、これまで自主申告制を取っていましたが、会員種別導入の本義に立ち帰り、原則、常勤職および退職者はA会員、非常勤職・学生その他の会員はB会員とし

て、幹事会の審議の上で会員種別を決定するよう改めさせていただければ幸いです。

2° 学会事務局・幹事会の再編: 現幹事会では、事務局を、代表幹事と事務局長の下、移行 (SMOOSY 導入) ・会計・名簿管理・HP管理および学会ニュース編集の各担当の6名で担う体制に改組しました。同時に、学会誌編集と年次大会開催については、編集委員会と大会担当幹事のそれぞれを窓口として、『年報』への寄稿や大会での自由論題研究発表の受付を行うよう改めます。いずれも試行的なものですが、より多くの幹事会構成員のあいだで責任を持って学会運営を分担する体制を整え、今後の持続的な学会運営のために最適なかたちを模索します。

3° 『年報』および『学会ニュース』のオンライン化: 従来、紙媒体で発行し、会員に郵送してきた『日本18世紀学会年報』と『学会ニュース』の発行形態を改め、オンライン化を図ります。これによって、経費削減を図るとともに、当学会の発行物の公開性を高め、学会活動を学会内外に広く周知していくことが望まれます。『年報』については、本年6月の次回大会での会員総会の承認後、来年6月発行の第40号からオンライン化を目指します(ただし、現在までのところ、幹事会では紙媒体の発行をいつの時点で止めるかについては方針が定まっていません)。また昨年12月の幹事会で承認された『学会ニュース』のオンライン化については、SMOOSYへのアクセス状況の推移を見ながら、時期を決定します。

4° 『年報』および年次大会の充実: 当学会の目標は、18世紀研究を志す研究者たちが、大学の制度的垣根を越えて、自分たちの関心を共通項として集い、学問的に自由闊達な議論を行う点にこそあります。近年の投稿論文や自由論題発表の減少に歯止めをかけ、『年報』と年次大会を充実したものにするために、組織体制の再編、学会企画の提案などにより、全力を尽くすつもりです。しかし、『年報』と大会の充実のためには、なにより多数の会員の参加が不可欠です。会員のみなさんには、毎年7月末〆切の『年報』への投稿募集、および毎年2月末〆切の学会大会での研究発表募集に積極的に御応募いただけるようお願いいたします。なお本年6月22日(土)・23日(日)に大阪大学文学部(豊中キャンパス)で行われる第46回大会は、五年ぶりに全面的に対面方式で開催します。多くの会員のみなさんと会場でお会いできることを祈っています。

以上、当学会が現在直面する課題をお示ししたのは、ひとえに会員のみなさんの御理解と御協力を願うためです。言うまでもなく、この『学会ニュース』や『年報』の発行・郵送や、年次大会の組織など、当学会の活動はすべて、会員のみなさんに納入いただいている会費収入によって賄われています。とりわけ2022年度以来、繰越金を大幅に切り崩しながら学会運営を強いられている財政状況の悪化に鑑み、会員のみなさんにはゆめゆめ会費納入をお忘れなきようお願いいたします。また、お知り合いに当学会に参加していない18世紀研究者がおられたら、分野や世代を問わず、積極的に入会の勧誘を行っていただけると幸いです(会費納入および入会手続きについては、以下、別途案内を差し上げます)。なお、年始以降、まず会費徴収率の低かった2022年度分と2023年度分の会費について、個別に会費請求を行っています。未納入の会員の方々には早急にご対応願えるようお願いいたします。

私にとって、日本18世紀学会は長く、さまざまな分野と世代の同好の研究者の前で、自分のそのつどの関心を発表し、議論することのできるアジールのような場所でした。国際18世紀学会の構成学会として、当学会を通じて、国際18世紀学会大会および若手セミナーに参加する権利が得られることも、当学会の大きな魅力の一つです。その18世紀学会の自由闊達で国際的に開けた雰囲気や、なんとか次世代に伝えたいというのが、代表幹事就任にあたっての私のささやかな願いです。運営体制移行に伴い、御迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、会員のみなさんには、日本18世紀学会の新規巻き直しにぜひ積極的に御参加いただけるようお願いいたします。

SMOOSY導入のご案内

当学会では、学会運営を簡素化・効率化し、学会を長期的に維持するため、この度、株式会社アトラスが提供する会員管理システムSMOOSYを導入しました。それにもない、日本18世紀学会の公式サイトも <https://jsecs.smoosy.atlas.jp/ja> に移転しました。旧公式サイトURLをブックマークされている方は、変更していただきますようお願い申し上げます。

SMOOSY導入に伴い、会員の皆様には各自「会員マイページ」が割り当てられ、各自の操作によって、以下の一連の操作が可能になります。

- ・会員登録情報の閲覧、変更
- ・会費納付状況の照会
- ・会費のオンライン決済手続き（銀行バンクチェック決済）
- ・会費の請求書、領収書PDFのダウンロード
- ・学会からのお知らせ閲覧

また、学会からの連絡や会費納入の督促もSMOOSYを通じて一括して行うこととなります。以下では、①会員マイページにログインし、登録情報を更新する方法、および②オンライン上で年会費の支払いを行う方法をご説明します。

①【会員マイページ ログイン方法】

- (1) 会員マイページの「初めてログインする方はこちら」をクリックし、会員情報として登録しているメールアドレス（※）を入力して「送信」ボタンをクリックします。
- (2) 「パスワード設定URLのお知らせ」メールが届くので、メール文内のパスワード設定URLをクリックします。
- (3) パスワードを入力し「登録」ボタンをクリックします。
- (4) 「会員マイページ」ボタンをクリックして会員マイページを表示します。
- (5) 画面一番下の「会員情報を変更する」ボタンをクリックし、ご自身の情報を確認・更新してください。

※登録されているメールアドレスは、当学会から会員の皆様にお送りしているメールの受信アドレスとなります。メールが届いていない方は事務局（jsecs18@gmail.com）までご連絡ください。

また、操作方法が不明な場合は会員マイページ画面右上の「ヘルプ」をご参照ください。さらに、一部の項目については、会員による変更ができません。会員種別、氏名、生年月日、入会日（不明者は1800年に設定）等です。これらについて変更を希望される方は、事務局までお知らせください。なお、賛助会員の方はマイページがご使用になれません。内容のご照会は引き続き事務局までお願いいたします。

②【年会費の支払い方法】

- (1) まず会員マイページにログインしてください（①参照）。
- (2) 画面上で「請求名称・入金状況」を確認してください。「未入金」と表示される年度の会費の納入をお願いします。
- (3) SMOOSYでの決済は、SMOOSYを運営する株式会社アトラスを通じて、株式会社ROBOT PAYMENT（ロボットペイメント）の決済代行サービス（バンクチェック）を利用しています（※）。
- (4) 「請求/入金情報」欄の画面右側「操作」枠の「支払う」をクリックし、
- (5) 明細を確認の上、「お支払いに進む」をクリックしてください。
- (6) 受付画面（ROBOT PAYMENTシステム）で電話番号と振込人名義を入力します（SMOOSY上で電話番号が登録されている場合は、あらかじめ表示された電話番号のままです）。振込人名義

欄にはSMOOSYに登録されている氏名のカナ表記が表示されていますが、お持ちの口座の名義と異なる場合は口座の名義と一致するよう変更してください。一致しないとROBOT PAYMENTシステム上で入金を確認できません。

(7) 「入力確認」画面で入力事項を確認の上、「次に進む」をクリックし、「決済申し込み完了」画面で「決済申し込み」をクリックします。

(8) ここで、いったん会員マイページに戻ります。「請求/入金情報」欄の右側に、あらたに「振込先口座情報」のボタンが現れるので、クリックしてください。

(9) 振込先口座番号の情報が現れます。以下はその一例です。各会員の振込毎に、「りそな銀行アース支店」の「ロボツトペイメントシュウノウダイコウ」名義の個別の振込先口座番号が指定される設定となっています。この口座番号は一請求につき一つずつ割り当てられるもので、同一会員であっても年度ごとに異なります。複数年度の会費が未納の方は、お手数ですがそれぞれの請求に対応した口座に入金してください。

例)

0010.りそな銀行	936.アース支店	普通.76****3.カ)ロボツトペイメント シュウノウダイコウ
------------	-----------	----------------------------------

(10) 受付メールが届きます。振込先口座番号はメールにも記載されています。

(11) 指定された振込先口座番号への入金は、従来のゆうちょ銀行口座への入金方法とまったく同じです。会員各自がオンライン決済なり、銀行での振込なりによって実行してください。

(12) ROBOT PAYMENTで入金を確認され次第、SMOOSYからメールで銀行振込の確認のメールが届きます（数時間、ないし土日を含む場合は数日かかる場合があります）。なお、学会事務局にはROBOT PAYMENTから入金確認後、その都度通知が入ります。

(13) 同時に、SMOOSYの会員マイページ上で「請求/入金情報」欄の該当年度の右端に「領収書を発行する」のボタンが現れます。

(14) 請求書を発行する場合は、「請求/入金情報」欄の画面右側「操作」枠の「請求書を発行する」からダウンロードしてください。

(15) 領収書を発行する場合は、お支払い後、「請求/入金情報」欄の「入金済を含む全ての請求を表示する」をクリックし、「請求一覧」画面右側「操作」枠の「領収書を発行する」からダウンロードしてください。

※年会費の支払いに関しては、事務局の負担の軽減のため、できるだけROBOT PAYMENTを介した入金をお願いします（一請求一口座の効果で、誰がどの年度の会費を払ったかが自動的に記録されます）。従来通り、学会のゆうちょ銀行口座への直接振込を希望される方は、学会事務局まで申し出てください。

新たなシステム導入のため、会員の皆様には大変ご面倒をおかけします。学会運営の効率化と維持のため、以上、①登録情報の確認と②年会費の納入につき、会員各位のお力添えをお願いいたします。

以上、ご不明な点があれば、日本18世紀学会事務局までお問い合わせください。

学会費納入のお願い

日本18世紀学会の会計年度は、4月1日から翌年の3月31日です。2023年度分の会費については、SMOOSY導入を控えてこれまで支払いを待っていただいていたため、まだ未払いの方が多数いらっしゃいます。また、2020年に導入された「A会員/B会員」の会費区分のため、近年学会事務局からの会費請求がままならず、学会財政は非常に困難な状況にあります。上記のSMOOSY導入のご案内に従

ってマイページにログインしていただき、過年度分の年会費についてもできるだけ早めに振り込みの手続きをとっていただくようお願いします。

第45回大会について

隠岐 さや香

日本18世紀学会第45回大会は、2023年6月17日（土）・18日（日）に東京大学本郷キャンパスにて、対面およびオンラインを併用するハイブリッド方式により開催されました。自由論題は5本でした。共通論題は「18世紀の西洋舞台芸術における人種・身体・血」で、コーディネーターは大崎さやの会員でした。人員および通信・音響環境等の事情により、レクチャーコンサートの開催は見送られました。その代わりに、学会企画として「『啓蒙を書く、啓蒙を編む』—『啓蒙思想の百科事典』刊行を記念して—」が、大会開催校企画としては「アーカイブの革命—革命期及びナポレオン帝政期ヨーロッパにおける歴史・記憶と政治的アイデンティティ」（日仏逐次通訳）が開催されました。関係者の方々に篤く御礼申し上げます。

第46回大会について

大石 和欣

来年度の第46回大会は、2024年6月22日（土）・23日（日）に、大阪大学人文学研究科（豊中キャンパス）で開催します。久々の全面対面形式での開催となります。会員のみなさんには奮って御参加いただきますよう、よろしくごお願い申し上げます。

開催校責任者は吉田耕太郎会員で、6月22日午後には本学会恒例のレクチャー・コンサートも開催予定です。「東西音楽交流のミッシングリンク」と題し、鈴木聖子氏（大阪大学）の講演と、和楽器奏者・片岡リサ氏（大阪音楽大学）の演奏、および聖歌の合唱（出演者交渉中）を予定しています。

同じく22日午後には、学会企画として、昨年物故された故・水田洋会員の18世紀研究・社会思想史研究の仕事を再検討する追悼シンポジウム「甦る「ある精神の軌跡」—水田洋と社会思想史の道」を開催します。登壇者には安藤隆徳氏（名古屋大学名誉教授）、植村邦彦氏（関西大学名誉教授）、坂本達哉氏（早稲田大学）、梅田百合香氏（桃山学院大学）をお迎えし、コーディネーターは大塚雄太会員（愛知学院大学）が務めます。

また、6月23日午後には予定されている共通論題のセッションについては、永見瑞木会員（大阪公立大学）をコーディネーターとし、「フランス革命再考」（仮題）をテーマに、登壇者には松浦義弘氏（成蹊大学名誉教授）、楠田悠貴氏（東京大学大学院）、上田和彦氏（関西学院大学）、熊谷英人氏（明治学院大学）、梅垣千尋氏（青山学院大学）をお迎えします。

以上、プログラムの詳細については、次号の学会ニュースでお知らせします。

自由論題公募要領

第46回大会で研究報告を希望される会員は、1000字以内の発表要旨をワードファイルかテキストファイルの形式で添付して、**2024年2月末日までに、学会幹事会（大会担当幹事）までメールでお申し込みください。**宛先のメールアドレスは以下の通りです。

jsecs.congress@gmail.com

採用の可否は幹事会で審査し、大会担当幹事から追ってお知らせいたします。報告は一件につき50分、うち研究発表に40分、質疑応答に10分の予定ですが、申込者多数の場合は、

個々の発表時間を短縮するなど、調整させていただくことがあります。あらかじめ御了承下さい。

若手研究者で研究発表の機会を求めている方にも、当学会に入会して発表していただく良い機会です。博士論文準備中の学生など周囲におられる方は積極的にお声がけいただけると幸いです。多くの会員の参加をお待ちしています。

2023年国際18世紀学会若手セミナー報告

大林 侑平

夏に開催される国際18世紀学会ローマ大会に伴い、2023年の国際若手18世紀研究者セミナーは会期直前にローマ近郊で開かれるとのことだった。要旨と推薦状、CVを送り、発表決定のお知らせがあった時、国際的な学术交流の経験がなかった私は両義的な感情を抱いた。

6月下旬、研究滞在中のドイツ中央部の町ゴータを立ち、ローマ中央駅に到着した時に感じたのは、雑踏の激しさと蒸し暑さだった。電車を乗り換え30分でローマ南の郊外の町フラスカーティへ至ると、飛行機遅延ゆえにシャトルバスに間に合わず、地元のタクシー会社に電話をした。町の縁に沿うよう車が丘を登っていく。葡萄畑、壁龕、噴水や彫刻が目につく。会場のヴィラ・モンドラゴネに到着すると先生方やスタッフの方々が出迎えてくれた。しばらくしてヴィラのツアーに参加していた他の発表者たちと合流した。

挨拶が終わると、ヴィラの中庭でカクテルパーティーという運びとなった。バロック的な柱廊、穏やかな景色、ワインや軽食が心を和ませ、参加者との交流を楽しむことができた。参加者の背景はブラジル、アルゼンチン、アメリカ、イギリス、フランス、イタリア、インド、中国、日本など多文化的だった。英語とフランス語が共通言語であるが敷居が高いわけではない。当然ながら互いの研究の話がすれればすぐに打ち解けた。不安は解消された。

このセミナーの全体テーマは「時間」であり、18世紀という時期区分こそあるが、地域も各々異なり、哲学、思想史、科学史、文化史、美術史、文学史、社会史、経済史を横断する。多種多様な発表が午前午後と続き、聴く側も試されるが質疑応答では活発な議論があった。同じキャリア段階にある参加者の発表は興味深く刺激的であったが、何より国際的な場で発表する経験のなかった私にとって、この機会はモチベーションを大いに与えてくれた。他の参加者とは、食事時にも、ローマ市街を歩いている時にも、移動中にも、研究や趣味の話を楽しんだ。呆れられるほど研究の話をして、結局問題ない。

最後に実用的なことを述べると、大抵の場合「遠方からの参加者」である日本の初期キャリア研究者にとってこのセミナーが魅力的である理由の一つは、交通費（上限有）と滞在費が助成されることにある。つまり原稿さえあれば、友好的で闊達な国際セミナーに、基本的に荷物一つで参加できる。テーマに応じて参加の機会があれば迷わず応募することを薦めたい。

2023年国際18世紀学会ローマ大会 セッション報告

増田 都希

数年ぶりに飛行機に乗った。

初日には間に合わず、2日目の7月4日からの参加となった（渡辺浩先生のご発表を聞けなかったことが心残り）。私たちの報告は午前の最初の枠で、到着時には会場全体がまだ静か。オンライン参加となった逸見先生とつながり安堵していると、日本人研究者2名が来てくださった。もう日本語で発表しようかと半ば本気で思ったが、十数名の聴衆が集まりスタート。小関先生、増田、飯田さんの順

に発表を終えてみると質問時間は意外にもあまりなかった。ルソーの執筆過程を復元する飯田さんの研究に感嘆の声が漏れたところがハイライトだった。

部屋を出て、昼食だ、午後の予定の確認だとなって、ようやく周囲が見えてきた。混乱の一因はスケジュールのタイトさと案内の少なさで、教室番号はあるが場所は分からない、報告と報告の間に休憩時間がなく10時～11時半、11時半～13時…といった具合で生身の人間にはこなせない予定の組み立てである。「エンジンバラ（大会）ではこんなことは…」という声を日・仏・英語で聞くことになる。

ちなみに3日目の遠足も15時集合のはずが、正午にはなぜかもうバスが出る、いやすでに出たらしいとなって地下鉄で現地に向かった。覚悟はしていたが、7月のイタリアの太陽が痛い。目の前の景色がゆらゆら揺れる。だがノーブル化学・薬学大学美術館の古い薬の調合器具や実験道具の数々、そこから見下ろすことができてしまった古代の都市遺跡フォロ・ロマーノは圧巻。はしゃいでしまった。

この後のガラ・ディナーにも参加した。高台の会場は沈んでゆく夕陽とローマの街を一望できるすばらしいロケーションで、ヨーロッパに来たのだなと実感。埃っぽい市内をはなれ、一面に広がる瑞々しい芝生とアペリティフで潤う。無理くりな発表スケジュールも別にいいんだと思わされてしまう。昨年6月の日本18世紀学会大会でご報告くださったドナート先生との再会にしばし沸く。

時間を戻して、4日午後。2本目の報告は韓国グループとの共同発表。韓国勢は若手も含め、多くの研究者が参加しているように感じた。知り合いの研究者からの質問の意味がとれず、よく分からない答弁をしてしまった。初めて会う研究者からあれこれと質問をもらって率直にたのしい。報告後は、韓国グループの皆さんとアペロと夕食をご一緒した。唯一ドイツ研究からの参加だった後藤先生も快く出席してくださった。ほろ酔いで駅裏の道を散歩しながらホテルに帰る。ゴミが散乱し、誰かが奇声をあげる夜の街をなつかしく感じる。育児で家にこもっていた頃の自分に、いま類似の状況に置かれている方々に、堪えていればまた学問の場に戻って来られるよと言いたい（実際には戻って来られなかった多くの方々の研究を活かせないことを私たちは大いに悔いるべきだと思う）。

個人的に最も印象深かったのは昨年6月に亡くなったダニエル・ロッシュの追悼全体会である。モノや場から人びとの生を甦らせ、彼らの精神世界を覗きこむロッシュの比類なき仕事に改めて感服するとともに、邦訳書が一冊もないことを残念に思う。役割を終えた大量のモノたちの命名にも、ロッシュのどこか詩のような独特のフランス語にも翻訳者は相当苦しめられるだろうけれど。

日本では、試験期間に入ろうかという時期。4年後はもう少し参加しやすい日程であることを切に願う。

最後に、ローマでご一緒くださった皆さま、初めて／久々にゆっくりおしゃべりできてとても楽しかったです。ありがとうございました。

2023年国際執行委員会報告

玉田 敦子

2023年は7月3日から7日にかけて、ローマ・サピエンツァ大学において国際18世紀学会第16回大会が開催された。この大会に先立ち、2023-27年の国際18世紀学会執行委員の選挙がおこなわれ、「副事務局長（Assistant Secretary General）」に隠岐さや香会員（前国際学会派遣委員）が選出された。隠岐会員の選出は、ひとえに同会員の功績と人望によるものであるが、日本学会の会員の皆様には今後とも一層のご支援をいただきたい。新しい会長にはドイツ学会のダニエル・フルダ氏が選出された。

第16回大会に際しては、まず大会前日の7月2日にナヴォーナ広場のエコール・フランセーズにおいて、2019-23年の旧執行委員会の4年間のタームを総括する委員会がおこなわれた。また最終日には新執行委員会が発足し、隠岐会員が副事務局長、玉田が日本学会代表委員として参加した。以下にローマ大会と執行委員会での決定事項を報告させていただく。

1) **ローマ大会**：2023年7月3日～7日に、ローマ大学（イタリア）にて国際18世紀学会第16回大会が開催された。ローマ大会のテーマは「Antiquity and the Shaping of the Future in the Age of Enlightenment」であったことから、3日のオープニングセレモニーの直後にはメインホールにてGlobal Antiquityをテーマとした基調講演パネル「Global Antiquity Plenary」が開催され、コーフィールド前会長の司会により、日本、中国、インド、スウェーデンのパネリストが報告をおこなった。日本からは、渡辺浩会員が筆頭著者となって隠岐会員と三名で共著にて制作した講演「The Makings of Antiquity : Japanese Experience in the Seventeenth and Eighteenth Centuries」を現地にて隠岐会員が報告した。5日間にわたる大会はパンデミックや戦争による航空運賃の高騰にもかかわらず、世界各地から参加者が集う盛会となり、日本学会からも20名以上の参加があった。5日にはマルタ騎士団広場に位置する国立ローマ学研究所のガーデンテラスにてガラパーティが開催された。夕日を背景にテヴェレ川対岸を一望するアウエンティヌスの丘からの眺めは絶景で、黄昏時のさわやかな風の中、世界各地の会員と親交を深めることができた。他のプログラムに関しては以下のサイトを参照されたい。

(<https://www.isecs-roma2023.net/en/contents/programme/118>)

2) **サラゴサ大会**：次回の大会は2027年7月11日～17日にスペインのサラゴサ大学にて開催される。また、執行委員会では対面での大会開催とは別に2年おきを想定したオンライン大会の開催が承認された。

3) **若手研究者支援**：国際18世紀学会は、近年、若手研究者の育成を重要な課題としており、ローマ大会では若手研究者に奨学金を支給した。また若手研究者を対象とした若手セミナーが、2023年はローマで開催された。2024年はバルセロナ、2025年はウクライナで開催の予定である。（ウクライナでの開催が困難な場合は、リヨンにおける開催が予定されている。）ローマ大会では「時間」をテーマとしたセミナーが開催され、14名の参加があった。日本からは大林侑平会員が参加した。

4) **アーカイブの作成**：国際学会では過去60年の軌跡をたどるため、ジュネーヴのヴォルテール博物館の協力を得て、アーカイブの構築が進められている。1990年代の資料を中心に少しずつ収集が進んでいるが、1980年代以前の資料を含めて更なる協力をいただきたい。

5) **ウクライナ学会に対する対応**：ローマ大会ではポーランドなど周辺諸国に避難した上で、ウクライナ18世紀史を中心に、果敢に研究活動を継続するウクライナ学会の会員と家族が招聘された。ウクライナ学会に対して今後も引き続き財政的支援をおこなうことが決定された。

6) **ロゴの作成**：18世紀の資料を活用したロゴが作成され、承認された。ロゴのコンセプトについては、ISECSのサイトに掲載される。

小林善彦先生を偲ぶ

坂倉 裕治

2023年1月13日、小林善彦先生が旅立たれました。本学会の初代事務局長として、学会運営の基盤をかためるために大変なご苦勞をされたと同っています。ルソー、ヴォルテールをはじめ、18世紀フランス研究で知られ、白水社版の『ルソー全集』を監修されています。東大、学習院大学で教授を歴任されたほか、早稲田の大学院でも教鞭をとられ、研究職をめざす学生を暖かく見守ってくださいました。個人的には、研究の中身にも増して、研究者として、大学教員として、いかに生きるべきかを教えていただきました。「授業の準備をいかにげんにして研究の時間を作ろうなどと考えるはいけません。他の人よりもいっそうの努力をして授業を作りなさい。そうすれば、翌年は7割の力でよい授業ができるようになります。そうしたら、3割の力で研究すればよいのです。」「人間を墮落させる3つのものがあります。お金と地位と名誉です。大学の専任教員にはこうしたものがついてまわります。うまく付き合うことが大切です。あちらからやってきたなら、頭をたれて受け取りなさい。離れ

ていくなら、笑顔で手をふって見送りなさい。追いかけるようになってはいけません。」人生の節目節目にいただいたご助言を逐一ここに記す紙幅はありません。先生の言葉を心に刻んで、曲がりなりにも、なんとか歩んでくることができました。研究者養成にかかわる立場になって、あらためて、あの頃の先生のようにでありたいと願っています。どうか安らかにお休みください。

『学会ニュース』第97号掲載記事に関するお詫び

日本18世紀学会幹事会

当『学会ニュース』第97号（2022年1月発行）では、「事務局より」の項に、『日本18世紀学会年報』第36号（2021年6月発行）掲載の寺田元一会員による『十八世紀叢書第7巻 生と死—生命という宇宙』書評について、訳者側（飯野和夫〔当学会会員〕・沢崎壮宏・小松美彦・金子章予・川島慶子〔当学会会員〕の五名）からの申し入れを承け、「『年報』第37号に書評を補完する訳者による文書を掲載する」旨、予告する記事が掲載されました。

しかし当該記事は、「補完」という文言が寺田会員とその書評の学問的信頼性を損ないかねないものであった点で、また、この予告掲載自体が『年報』誌上での訳者側からの反論の掲載によって対処すべき学術的議論の原則から逸脱する点で、不適切なものでした。『学会ニュース』で『年報』における書評への応答の掲載を予告するといった措置は、本来なら幹事会の審議を経て決定されるべき例外的措置であったにもかかわらず、2021年12月の幹事会では、この措置が審議されることはありませんでした。しかもこの例外的措置は、訳者側の申し入れに基づきながら、寺田会員への事前通知なしに取られた点で、公平性を欠いていました。以上の点につき、日本18世紀学会幹事会は寺田会員に陳謝します。

また、『生と死』諸氏に対しても、一旦は当時の代表幹事とのあいだで合意された措置を、幹事会が正規の手続きを取らなかったことを理由として、事後的に不適切であったと判断することにより、結果的に代表幹事との合意を一方的に撤回するに至った点について、幹事会の責任を認め、陳謝します。

なお、『学会ニュース』第97号の当該記事中の「補完」という文言について、訳者側はこの文言が寺田会員とその書評の学問的信頼性を損ないかねないものであったとは考えていないという見解を寄せていることを申し添えます。

以上のお詫びは、2023年6月18日の第45回大会総会でその概要が報告された「寺田元一会員の要望書および抗議を承けての学会の自己検証最終報告書」に基づいてなされています。詳細は、学会HP上で会員向けに公開されている当該総会の議事録を御参照ください。その付属文書として、「最終報告書」概要、寺田会員の「私見」、『生と死』訳者側の「意見書」、および総会で配布された特別資料付録（『年報』第36号掲載の寺田書評、『学会ニュース』第97号における訳者側からの「補完」予告、『年報』第37号掲載の訳者側による〈書評への応答〉）もあわせて公開されています。



事務局より

幹事会・総会について

『学会ニュース』第100号の刊行以降、幹事会および総会が以下の日程で開催されました。

2023年6月17日（日） 2023年度第1回・第2回幹事会

2023年6月18日（日） 2023年度総会
2023年8月11日（金） 2023年度第3回幹事会
2023年12月23日（土） 2023年度第4回幹事会

詳細につきましては学会HPに順次公開予定の議事録にてご確認ください。パスワードは会員には別途お知らせしてあります。

『学会ニュース』のオンライン化について

王寺代表幹事による挨拶にもありました通り、これまで紙媒体で発行してきた『学会ニュース』のオンライン化を目指しています。会員の皆様へのお届け方法としては、メールを通じて事務局のGoogle Driveのリンクから各自でダウンロードしていただく形を予定しています。なお、学会ウェブサイト上にはこれまでと同様、個人情報削除した抜粋版を掲載いたします。今後はメールを介した送付となりますので、メールアドレスの登録がお済みでない方がいらっしゃいましたら、事務局までご一報ください。

会員名簿の作成について

2016年度以降しばらく発行が停止していましたが、会員同士の研究交流の活発化を図るため、来年度から会員名簿の定期的な提供を再開する予定です。今回から、名簿に掲載する個人情報は最小限にとどめ、①氏名、②所属先、③メールアドレス（公開・非公開は選択可）、④現在の研究課題のみとします。メールアドレスの掲載を希望しない方はお手数ですが事務局までご一報ください。詳細につきましては後日会員の皆様にあらためてご連絡します。

『年報』への論文投稿について

大会での発表をもとにしたもの以外の論文も投稿できます。詳しくは年報または学会ウェブサイト記載の投稿規定をご覧ください。

投書欄について

この『学会ニュース』に投書をしていただくこともできます。事務局までお申込み下さい。

共通論題のテーマ、および書評対象図書

会員の皆様からの提案を随時受け付けています。事務局または担当幹事までご一報ください。（ただし、共通論題のテーマ決定に際しては開催校の希望が優先されるので、必ずしもすぐにご提案が実現するとは限りませんが、事務局から開催校や幹事会に伝達します。）

当学会は学際的な学会であるため、会員の研究が広範囲に及び、担当幹事だけでは各分野の重要文献の情報を集めるのが困難です。書評で取り上げるに値すると思われる図書がある場合、事務局までお知らせください。（特にご自分の専門分野が当学会で十分に扱われていないと思われる方は、積極的にご推薦ください。）

『学会ニュース』のエッセー

今のところ、事務局から執筆をお願いしていますが、会員の皆様からの希望も受け付けています。執筆を希望される方は事務局までお知らせください。

寄付のお願い

前号以来、以下の方から寄付がありました。お礼申し上げます。

川島慶子会員 100口 100,000円

寄付を希望される方は事務局までご一報ください。こちらから振込方法についてお知らせいたします。

献本

学会宛に以下の図書をいただきました。お礼申し上げます。

- ・ 鳴子博子『ルソーの政治経済学』（晃洋書房、2023年4月）
- ・ イヴ＝マリー・アンドレ神父『美についての試論』、馬場朗訳・解説（法政大学出版局、2023年12月）

新入会員の方へ

毎年6月の幹事会で入会を承認された方はその年度からの会員となります。6月の幹事会以降に入会を申し込まれた方は12月の幹事会で承認され次年度からの会員扱いになりますので、会費の請求はありませんが、他の会員同様に諸種の配布物をお届けいたします。

新会員の勧誘のお願い

ぜひ18世紀研究に関心のある方を本会にご勧誘ください。SMOOSY導入にあたり、学会ウェブサイトの〔入会案内〕から入会申請が可能となりました。

幹事会メンバー（50音順）：飯田賢穂（事務局）、出羽尚（年報編集）、岩佐愛（年報編集）、王寺賢太（代表幹事）、大石和欣（大会）、大塚雄太（大会／年報編集）、隠岐さや香（大会／国際学会副事務局長）、金沢文緒（事務局）、川村文重（事務局）、小関武史（事務局）、後藤正英（年報編集副委員長）、斉藤渉（事務局長）、菅原百合絵（広報）、武田将明（年報編集委員長）、玉田敦子（国際学会派遣委員）、永見瑞木（年報編集）

会計監査：井関麻帆、奥香織

日本18世紀学会ニュース 第101号 2024年2月発行

発行者 日本18世紀学会 代表者 王寺賢太

事務局 〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1

東京大学大学院総合文化研究科 斉藤渉研究室 日本18世紀学会事務局

e-mail: jsecs18@gmail.com

<https://jsecs.smoosy.atlas.jp/ja>